

令和3年度奨学生 留学体験記

私が留学を決めた理由はあまり褒められたものではないが、高校に入学してからの勉強に対する息苦しさが決め手になったと思う。高校受験のために必死で勉強したにも関わらず入学してからもひたすらまた大学受験のために勉強させられるというのは私にとっては理解しがたいことだったし、特に倫理なんかは人間がどのように考えてどのように世界をみてきたのかを知れる面白い教科であるにも関わらず授業でやることは考え方や用語を暗記するだけで誰もその考え方に基づいて考えようともしていないのが私にとっては酷く違和感だった。

このまま3年間ひたすら勉強していい大学に入ることが幸せなのかと考えることが多くなった日々の中で私の両親がみつめてきたのが AFS 留学だった。書類の提出期限まで一日しかなかったものの、あまり裕福ではない私の家にとって大きかった奨学金の存在と両親の後押しで留学することを決めた。自分の目で世界を見てから自分の将来を決めようと思ったからだ。そして、時はあっという間に過ぎ去り私はイタリアでこれを書いている。

これを読んでいる人はきっと少しでも留学に興味がある人だと思うのだが先に言っておくともし君の両親が留学に前向きだったり、お金を出してくれるたりするというならもちろん、もしそうでなくても、もし君に少しでもチャンスがあるのなら君は留学すべきだと私は思う。留学というのはなにも語学の向上のためにするものじゃない。もちろん語学は生きるために向上せざるを得ないが(特に英語はどこ国に行こうがきっと上達するはずだ)、それよりも君は新しい友達を手に入れ、新しい文化を知ることができる。それはすなわち君自身の世界が文字通り広がるということだと思う。

知らないことは認識できない。私が今まで食べていたカルボナーラがカルボナーラではなかったことをイタリアに来て初めて知ったように。君が留学を決意すれば少なくとも5ヶ国語でどうすれば『くそつたれ』と言えるのかを知ることができる。本場のピザの匂いや街で声をかけてくる人からどうやって逃げるか、ボールがあればどこでもサッカーが始まることを知ることができる。一見どうでも良さそうなことに見えるがこれを知るだけで君の生活は間違いなく少し楽しいものになる。自分が無意識に持っていた偏見にも気づくことができる。

日本を離れることは怖いかもしれない実際私も怖かった。言語を理解できない日々の中でいわれもない疎外感を感じた。でも言語、文化は違えどこの地球では人間は一種類しかいない。どこの国でも、男子高校生は可愛い女の子の話と下ネタで盛り上がっているし、嬉しいときは皆笑う。要するに世界は広いようで狭く、狭いのなら尚更自分の目で見てみるのも悪くないと私は思う。

最後にこの機会をくれた両親と新潟市には心の底からありがとう。いや、Grazie.

(2022年8月～2023年6月(予定)で留学中)



ミラン大聖堂



ヴェネツィア



学校の旅行(後ろは海)



クラスメートと先生